

市が消費税増税を前提にした市税条例一部「改正」を提案 「増税先送りが事実上決まっておかしい」と批判

今議会におかしな議案が提案されました。それは市税条例の一部「改正」案。消費税増税の先送りが事実上決まっているにもかかわらず、10%に引き上げを前提にしています。

13日の総務常任委員会で、この市税条例の一部「改正」案が審議されました。

市は提案理由の説明のなかで、「議案発送後、先送りが総理から出た。すでに地方税法改正が行われているなかでは、それとの整合性を確保する必要がある。他市も提出する」とのべましたが、私からは、「増税先送りが事実上決まっているのにおかしい。国政がこの問題で動いているにもかかわらず、直そうとするのは市民から受け入れられるものではない。いま提出すべきではない」と訴えました。しかし、市は、「地方税法と整合性のない条例は直さなければならぬ。臨時国会で消費税増税先送りが正式に決まれば、その時点で、場合によっては、28年度税制改正が決まってから再び市税



条例改正を行うこととなる」とのべ、譲りませんでした。今回の市税条例一部「改正」案では法人市民税の税率を12・1%から8・4%に引き下げ、軽自動

車税に環境性能割を創設することなどが盛り込まれていますが、中身は消費税の増税を前提にしているものが少なくありません。ひどい話ですね。

消防団員への報酬支払い方式の改善を

朝日新聞4日付けで、上越市の消防団員が市に「報酬を受け取ったことがない。報酬は各自の口座に振り込みできないのでしようか」などとした投書をし、オンブズマンが調査した結果、報酬などを団員に直接支払うよう求めたが、市はいまの方式は「法令等には抵触していない」などとして受け入れなかったと報道がありました。

13日の総務常任委員協議会で私はこの問題をとりあげ、「消防団員への報酬は全ての団員に渡らなければならぬものだ。今回のことを契機に、団員の口座に直接振り込むようにするのが一番いい。分団長が代理受領する仕組みを維持するというなら、少なくとも、新潟市のように団員から受領印をもらうようにすべきではないか」と主張しました。

他の委員からも発言が相次ぎ、野口副市長は「もう一度消防団と話し合せて、実態調査を含めて方向性を出したい」とのべました。今後の動きに注目です。

北陸4県の野党統一の4氏が 上越妙高駅に集結し、演説

北陸新幹線上越妙高駅西口に11日、北陸4県の参院選挙区選挙の野党統一の予定候補が集結して共同街頭演説を行いました。呼びかけた



【オカトラノオ】サクラソウ科の多年草。漢字を入れて書くと、「丘虎の尾」となります。いま、白い花を咲かせ始めました。花穂の下の方から徐々に上へと咲いていきます。吉川区下中条にて撮影。



しても安倍政権の暴走を止めたい」などと訴えました。この日は青空が広がり、暑くなりまし

のは連合です。森ゆうこ（新潟）、道用えつ子（富山）、しばた未来（石川）、横山たつひろ（福井）の4人の予定候補が訴え、上越市内外からやってきた約200人が聴き入りました。このうち、森ゆうこ予定候補は、「まず、額に汗して真面目に働く皆さんが報いられるそんな日本を取り戻したい。そのことに全力を傾けて行きたい。もし安倍政権が圧勝するようなことになれば、待っているのは残業代ゼロ法案だ。今回のたたかいは自由、民主主義、平和を守るための歴史的なたたかいだ。今回の闘いは、子どもの未来、子どもの命を守る闘い。負けられない」と訴えました。他の3氏も「安倍法制をなくし、平和な社会をつくる」「アベノミクスの掛け声の下で強い人、お金持ちだけが恵まれ、弱い人は切り捨てられてきた」「何と

はしづめ法一の活動レポート

No.1761 2016.6.19
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第四〇九回 槐

槐（えんじゅ）という木をご存じでしょうか。木へんに鬼と書くことから、魔除けなどのシンボルとして大事にする人がけっこういます。わが家でも亡くなった父がこの木を好きだったものですから、床の間の柱として使っています。

私がこの木の存在を知ったのも、床の間がある二階の和室にこの木を使うことにしたことからです。三十数年前のことです。木目がなんとも言えないほど美しく、材質も固い。床柱にはもってこいの木だと思いました。

父はこの木をわが家で使った後、何本か植樹しました。うまく育てることができたらば、お金にもなる、そう考えたのかも知れません。植えた場所はわが家の庭と牛舎脇の荒地でした。

植えてから手入れをしていたかどうかは記憶にないのですが、牛舎があった場所の近くにはいまも二本の槐の木が立っています。どちらも思うようには育たず、真つすぐな幹の部分は一丈ちよつとの長さしかありません。床柱になるような素生の良さは發揮できませんでした。

ただ、いつも気になる木ではありません。特に春、この木は芽が出るのが極めて遅いのです。木々の中では一番遅いと言ってもいいかも知れません。周りには榎の木、桑、ヤマザクラ、柿などが芽を出し、葉が青々するころになってもなかなか芽が見えません。ひよつとすると枯れたのかもしれない、そんな心配をしてみようのです。

この二本の槐に異変が起きていたことに気づいたのは昨年六月のことでした。周辺の草刈りをしていて、南側の槐の幹にツタが絡まっていたことがわかりました。蔓性（つるせい）のものが木の幹に絡みつく木そのものを殺してしまうことがあるものから、ツタをはぎ取りました。

何本かのツタをはぎ取ってみると、そこにはナイロン袋をくわえた幹の姿があるじゃありませんか。その姿は頭の大きな宇宙人のようでした。驚きましたね。いったい何でこんなことになったのだろう。いろいろ考えてみたうえで結論は、父の仕事の跡だということでした。

私なりに推測すると、父がこの木にロープを巻く際に、幹を傷めないようにナイロンロープはそのままになりました。数年経過するなかでロープはナイロンごと幹に食い込んでいきます。ロープは一昨年、牛舎解体工事の人たちの手によって外されました。でも、ナイロン袋はそのままとなり、今度はツタが木に絡みついたというわけです。たぶん、私の推測は当たっていると思います。

この槐の木は形が宇宙人のような感じになっていただけでなく、幹そのものも致命的ともいえる損傷を受けていました。「宇宙人の頭」の部分の裏側に回ってみると、人間のお尻のようにふくらんでいました。ところが、そのふくらみには割れ目があり、中をのぞいてみると、幹の内部がぼろぼろに腐っていたのです。それだけではありません。上の方にある枝の一部がすでに枯れていたのです。

昨年、わが家の槐の木の異変に気づいたのは父の七回忌法要の後でした。槐は魔よけだけでなく、幸せを呼ぶとも言われています。おそらく父もそんなことも頭において大事に育てようとしたにちがいないと思います。二本のうち一本が枯れかかったいま、せめて残りの一本だけでも大事に育てなければ……。

消防団吉川方面隊の演習に参加

12日は朝7時半から消防団吉川方面隊の演習でした。駆け付け放水訓練はいつもの場々谷池、今回は1台のトラブルもなく、順調に放水訓練を終えました。右上の写真は駆け付け放水訓練の様子です。



9時前からは、会場を吉川中学校グラウンドに移して、部隊訓練、機械器具の点検、小型ポンプ操法等の訓練が行われました。前夜に雨が降ったこともあり、とにかく暑かったですね。聞くところによると、大湯方面隊や頸城方面隊の演習では具合を悪くした団員が出たとか。

今回の訓練には上越消防団の大島団長も来られていました。吉川方面隊の訓練に団長が参加されたのは、私の知る限り初めてです。来賓席では大島団長か

ら「失敗がその後の飛躍につながる」などいい話を聞かせてもらいました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月8日(水)	6月15日(水)
上越南消防署	0.050	0.047
上越北消防署	0.057	0.057
新井消防署	0.050	0.057
頸北消防署	0.047	0.043
頸南消防署	0.047	0.047
東頸消防署	0.047	0.043
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.057	0.057

大島ほたるコンサートは25回目



大島区で12日あった「ほたるコンサート」に行ってきました。同コンサートは今回で25回目、4半世紀も続いたのは素晴らしい。

会場の大島生涯学習センターには100人近い人たちが集まりました。コンサートではソプラノ歌手

のサイ・イエングアンさんが「夏は来ぬ」など日本の名曲や「ある晴れた日に」など歌劇の名曲を全部で15曲歌いました。サイ・イエングアンさんの歌を聴くのは今回で3回目ですが、いつも「愛する小鳥よ」を聴いて惚れ惚れしてしまいます。小鳥のような声を出す歌手といえば失礼でしょうか。声の幅も美しさもある。見事としか言いようがありません。